

クリニックだより2016年10月号

こんにちは、中島です。

今年は9月中も、10月に入っても、じめじめした暑い日が続いています。このような環境では、ウイルスも生き残れず、発熱疾患は少ないようです。しかしながら、昨年秋からぽつぽつと始まった“おたふくかぜ”は、今春から夏にかけて流行し、夏休みでいったん減少したかに見えましたが、例年通りの感染数まで減少せず、むしろ増加に転じてきている印象です。おたふくかぜは、予防接種で予防できるウイルス性の疾患です。罹患していない、あるいは、一度も予防接種をしていないお子さんは、予防接種を接種することをお勧めします。

この10月で当クリニックは、丸12年を過ぎ、13年目に突入しました。この10年で、小児科の診療は大きく変化しました。例えば、水痘は、“おたふくかぜ”とは異なり、限られた年齢ですが定期予防接種が始まり、散発的な小さい流行は認めますが、以前の様な大流行はありません。今後も、水痘は接種さえ忘れなければ大流行することはないと考えます。このように、この10年の定期や任意の予防接種の2カ月からの接種開始や種類の増加で、小児科の感染疾患は減少しています。一方、日本の高齢化や生活スタイルの変化など、様々な要因で、こどもたちが、低年齢で集団の生活する機会が増加しています。

このような変化をふまえて、昨年からクリニックの改装に着手し、昨年6月にクリニックの診療部門を移転し、今年4月から旧クリニックを改装し、6月14日から“病児保育”を開室しました。当クリニックは、開院以来、“こどもが主役で”診療を行ってきました。今後も“こどもたちが明るく元気で成長していくことに手助けができるようなクリニックをモットーに頑張っていきたいと思っています。

平成28年10月3日

なかじまクリニック小児科・循環器科 中島 徹



なかじまクリニック小児科・循環器科

